

(69) 群馬県南会津の水引鉱山跡一追記

ここも10年ぶりに再訪した。現地はほぼ昔のままであった。既報も参照のこと。10年前は現地近傍の林道から急斜面を標高差50mを下って川底に降り、鉱山跡に達した。今回もそれを踏襲したが、ほぼ平坦な他の容易な経路を確認することもできた。今後はこの後者の経路を辿ることを勧める。現地で本鉱山の主要な産物である磁硫鉄鉱の標本も容易に採集することもできた。

2020年11月



図1 352号を西行して来たならば、松戸原地区のA点の所で左折し、湯ノ岐川に沿って村道を南向して行く。赤丸が鉱山跡である。



図2 図1の部分拡大図。今回は2つの経路で鉱山跡であるE点に行き着いた。1つは前回同様、C点に車を駐車させ、斜面の傾斜の緩そうなD点から川底へ降りて、E点へ。もう1つはB点に駐車し、そこから林道の支線に入り、砂防ダム脇を通りE点へ。安全面、労力面ともに後者の経路がお勧めである。E点の所の黄緑丸が坑口跡、茶色ベタがズリ及びプラトー。

鉱山跡写真



写真1 図1中のA点付近である。352号を西行して来たら、松戸原地区のこの所で赤矢印のように左折し、湯ノ岐川に沿って南行していく。



写真2 図2中のC点付近である。登って来た方向を向いての様。右側となっている川の対岸が鉱山跡である。この付近に駐車できる。この当たりの川底への斜面はきつい。林道を少し戻って、赤輪（D点）付近の傾斜が少し緩くなった箇所から川底へ下った。



写真3 E点付近である。川底から右岸を見ている。矢印のように小さい涸れ沢が伸び上がっている。沢には磁硫鉄鉱、石灰石が結構沢山転がっている。赤輪あたりにズリ、プラトー、坑口がある。



写真4 ズリとプラトーの上から川の方を見下ろしている。川底から矢印のように登り上がった。赤輪のところに人工の木材が残っている。



写真5 プラトーにあったボルト付きのコンクリートのアンカー。



写真6 プラトー部で山に向かって右手端にあった坑口跡。赤輪の中央の黒い部分。10年前と変わるところはない。



写真7 入口から内部を覗く。直ぐ先で左右に坑道が延びているようである。



写真8 図2のB点付近。手前から向こうに真ん中を延びている林道の先はC点方向。砂防ダム経由のルートへは矢印のようにここで、左側にある支道に入っていく。この支道は地形図に黒線で描かれてもいる。入ると砂防ダムまで平坦で広く確りした林道である。



写真9 B点から直ぐ先に砂防ダムが見える。林道は突堤の右手まで伸びている。

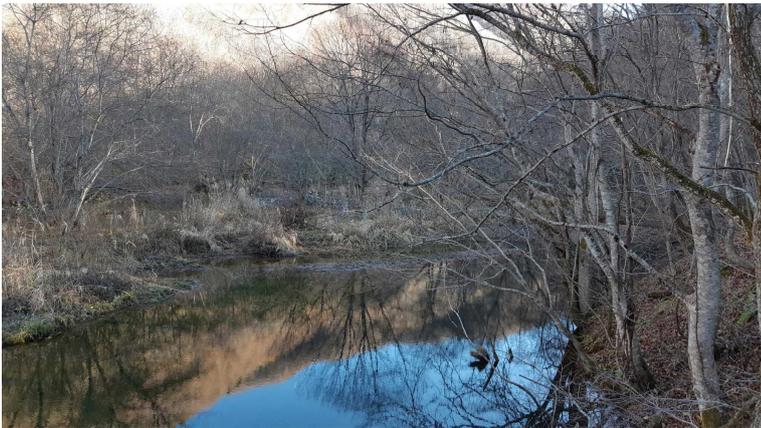


写真10 ダムの突堤から、上流のE点方向を見ている。土砂が満杯に堆積し、平坦さはE点近傍まで続いている。水を避けるならば、右側の裾から先に進めよう。

採集鉱物写真



写真11 E点で転石から採集した磁硫鉄鉱の標本2点。左はハンマーで一撃したもの銀ピカが綺麗。右は転石そのまま。ともにずっしりと重い。ネオジウム磁石でもほぼ吸着しない。磁鉄鉱成分は少ないものと思う。

付記

既報の地形図2中で記している2つの赤丸のうち、上流側（図では下側）のズリを、今回確認することができなかった。10年前と違って、藪、下草、灌木、木立が生い茂って、川底から斜面上に明瞭なズリ跡として視認できなかったようである。そのあたりを藪漕ぎして登り上がれば確認できたのかもしれない。少し努力が足りなかったのかも。

(69) 水引鉦山跡

参考文献(1)を手引きに、福島県南会津郡舘岩村にある水引鉦山の探査を行った。文献によれば、本鉦山はスカルン鉦山であり、金属鉦物は方鉛鉦、閃亜鉛鉦、磁硫鉄鉦、黄鉄鉦、硫砒鉄鉦等であるが、主たる産出金属は鉛と亜鉛である。

鉦山への経路は次の通りである。353号から、松戸原地区で350号に入り、湯ノ花温泉方向に南下していく。湯ノ花地区、水引地区を通り、更に南下していく。伯母ノ岐沢を渡ると、少し先の所で道路は大きなS字カーブとなり、道路の左下が新道沢となる。このあたりの対岸に鉦山跡がある。樹木の茂っている時期では、殆ど視認することは難しそうである。地形図1の赤丸の所である。

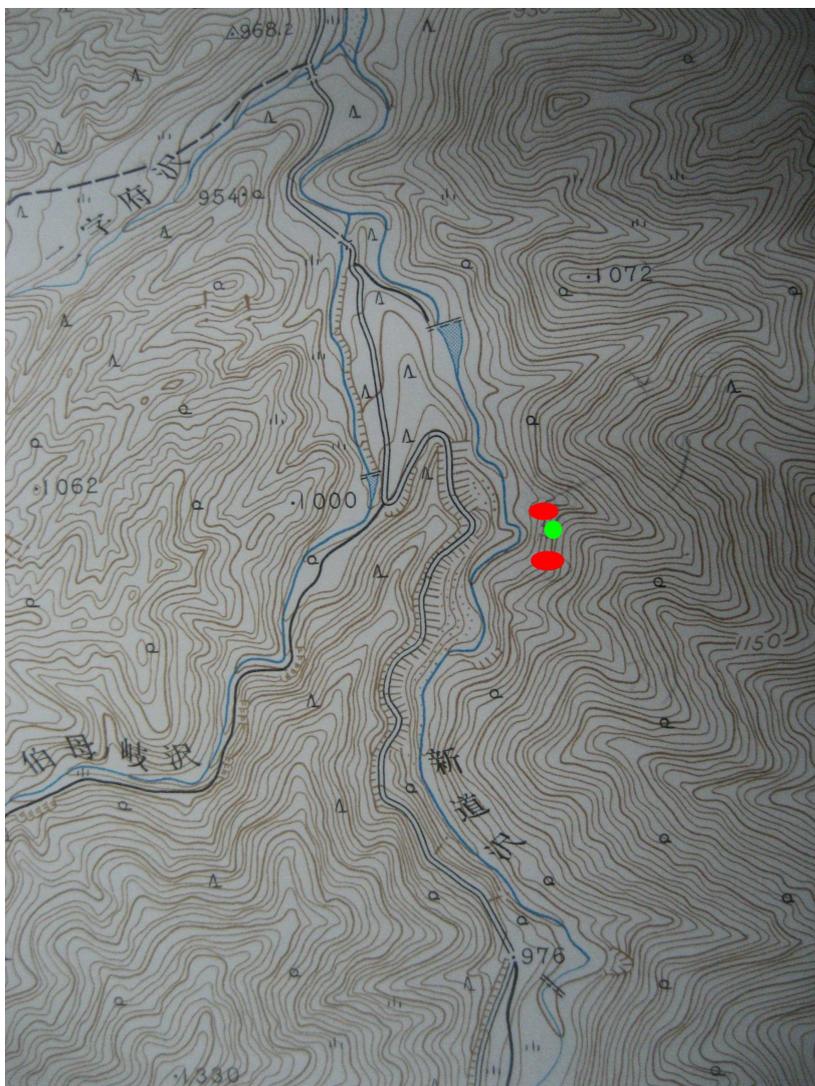


地形図1

地図 国土地理院 2万5千分の1地形図「湯ノ花」
探査日 2010年 11月

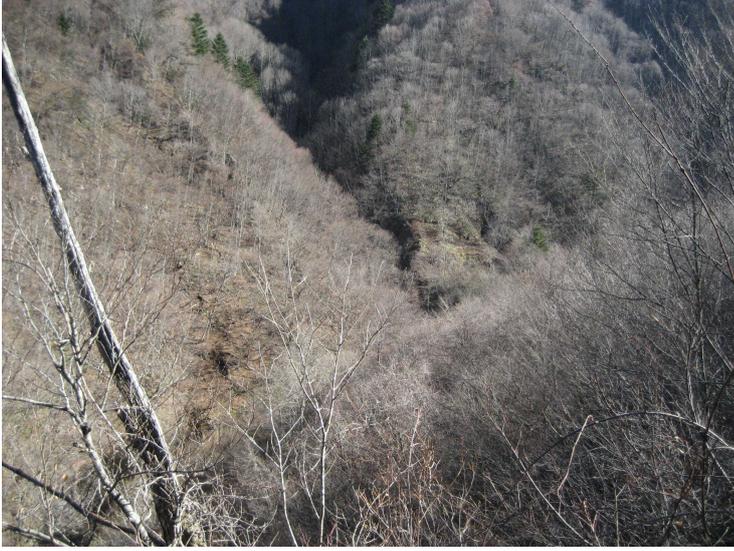
参考文献 (1)「日本の鉦床総覧(上巻、下巻)」、日本鉦業協会、1965年、非売品。
産総研(つくば市)の地質調査所図書室で閲覧可能。

地形図2は部分拡大図である。ズリ跡は2箇所、坑口跡は1箇所を見つけた。林道から鉱山跡に行くには、林道から新道沢に降りていくことになる。急な崖になっているが、場所によっては少し緩やかな所もあるので、その当たりで沢に降りればよい。沢におり右岸を探していけばズリ跡が見えるであろう。新道沢の水量は時期にもよろうがそれ程多くはなく、長靴で渡れた。地形図から、別経路もありそうである。伯母ノ岐沢の橋を渡って直ぐに左の側道に入り、砂防ダムの所まで行く。底から歩いて沢を登っていく経路である。未だ試してはいない。を



地形図2 地形図1の部分拡大図。赤丸がズリ、黄緑丸が坑口跡

鉋山跡写真



林道から見た鉋山跡。上から中央に下っている沢の中央右側の所。樹木の茂っている時期には見えないであろう。



地形図 2 中の上の赤丸の所のズリ跡を下から見上げている。上部に人工物がある。周り一体ズリである。鉋石も沢山落ちている。



ズリの上に上がって、先に進むと坑口跡がある。中央の黒い穴が坑口跡である。のぞき込むと内部は綺麗であった。



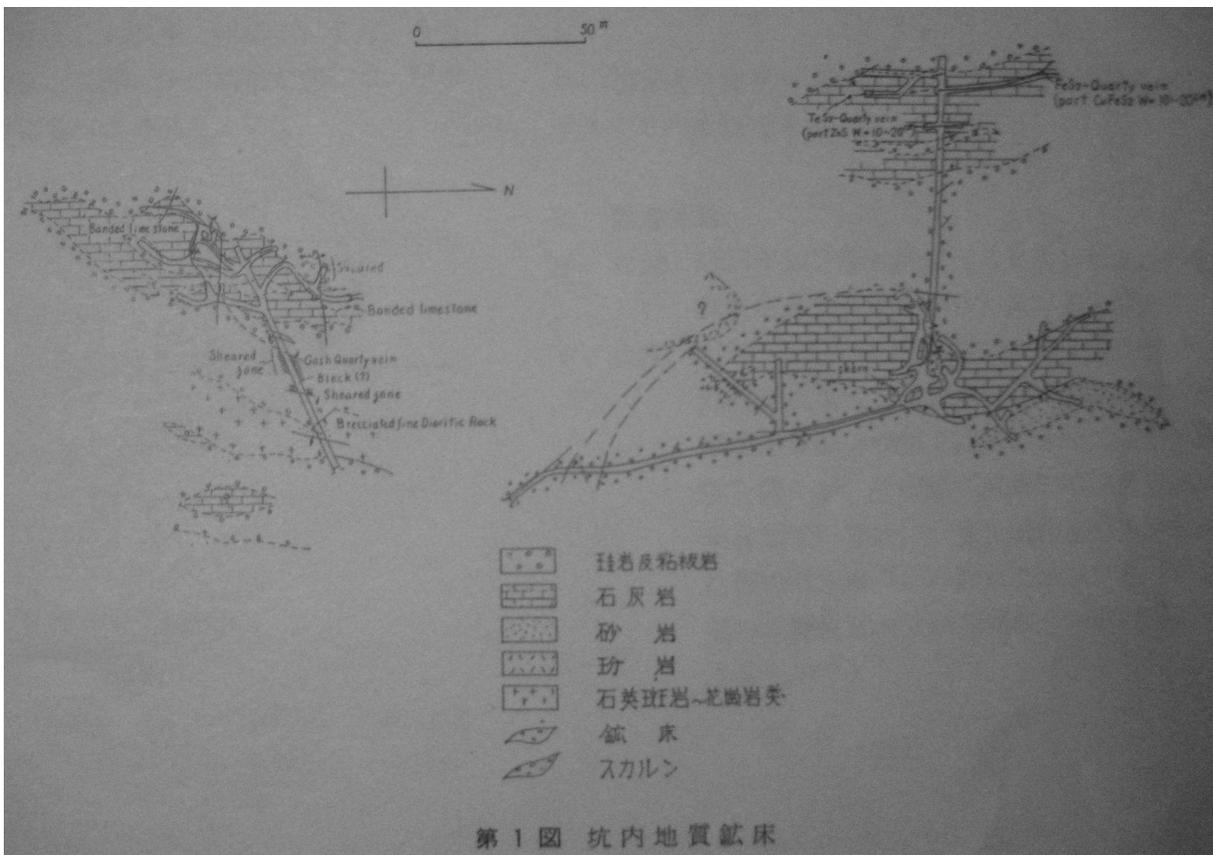
地形図 2 中の下の赤丸の所のズリ跡。下から上に向かって撮っている。

採集鉱物写真

閃亜鉛鉱方鉛鉱などの鉱石のズリは豊富である。時間をかけてじっくりと探せば、良好な標本を得る確率は高い。

参考資料

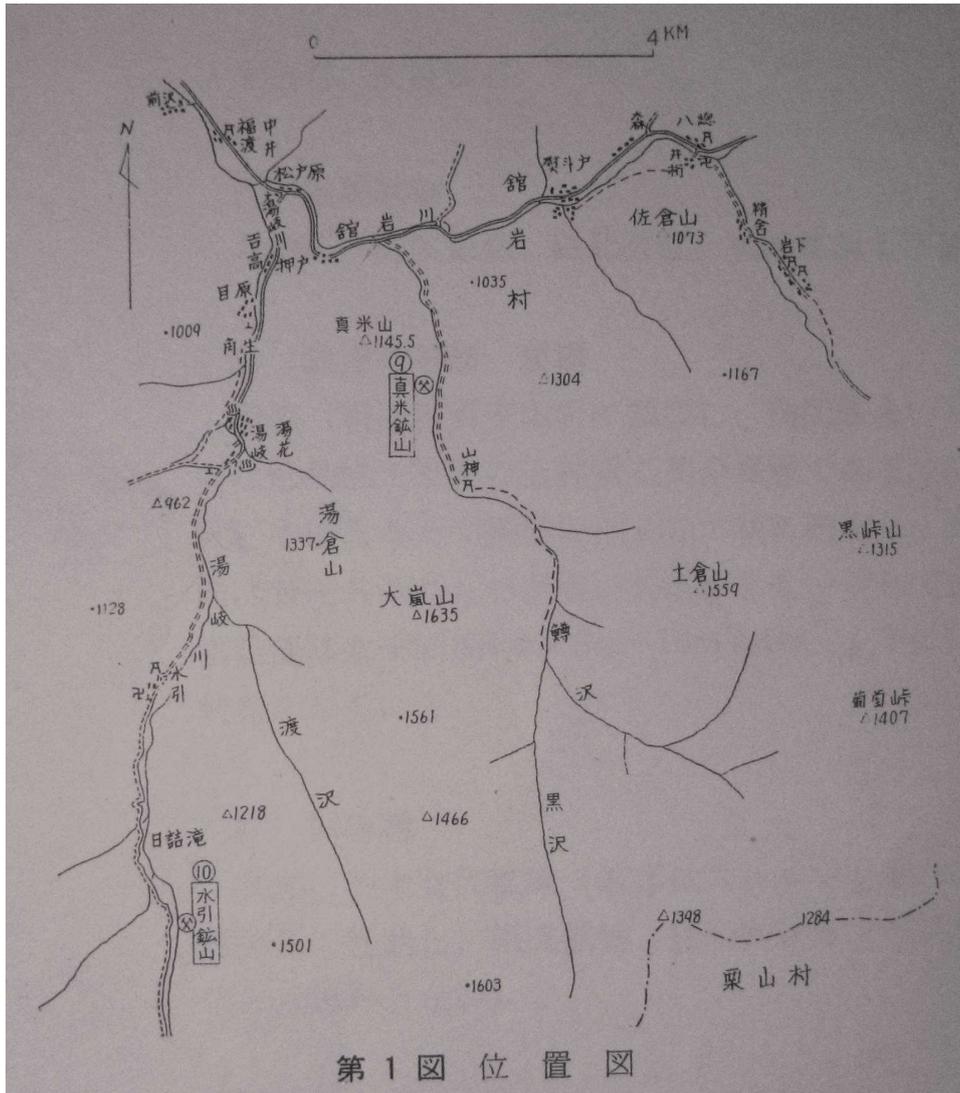
水引鉱山に関する、参考文献（1）からの一部資料を複写掲載する。



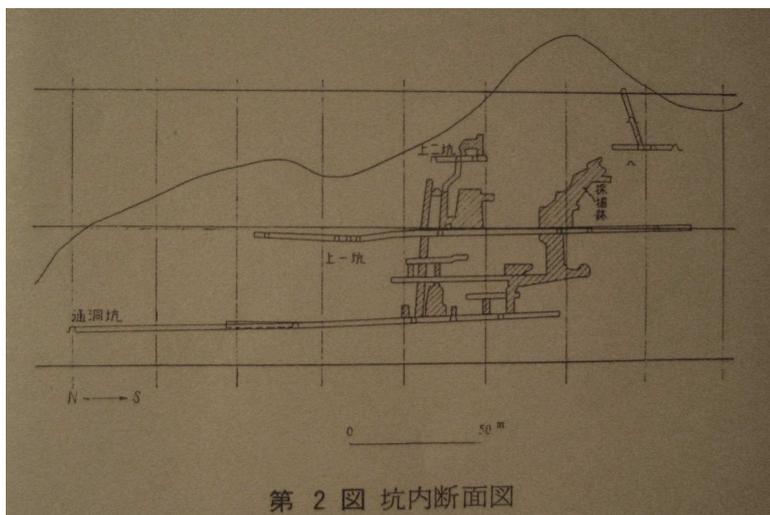
第 1 図 坑内地質鉱床

部、スカルン部は小さい。今の所、確認できた坑口跡は 1 つである。所で、図中の南北が逆になっている気がするが。

鉱床



これは「真米鉾山」の項に掲載されていたものである。左下に水引鉾山の位置が記載されている。しかし、少なくとも50年以上も昔の地図である。



規模の小さい鉾山であったようだが、ズリはしっかりとある。